

1 日目：個人シナリオ全体

【危機管理課職場関係者】

B（危機管理課 課長）54歳 男性

約30年前に県庁に入り、何度か転勤で他の部署も経験したが、勤務経験の殆どは危機管理課であり、この業務にはプライドもあり自信も持っている。

危機管理課は少人数ではあるが、災害発生時には県の災害対策室で指揮中枢となることが求められるので、課の職員には高い意識を持ってもらいたい。

課長になったのは3年前であり、専門官のCとはその時から一緒に仕事をしており、気心も知っているし危機管理能力にも一目置いている。

Cは声も大きく所謂昭和世代の明るい中年男性で、細かいところへの配慮がややかけるため、部下の女性職員にはセクハラめいた発言をすることもあり注意している。

今回自殺をしたAは昨年4月に27歳で県庁に入ってきた。新人であるが、やや年齢が高いこともあって危機管理課に配属となり、一係で基礎を学んでもらうこととしたが、直属の先輩が年下の女性であることや、指導を任せることとなったCが豪放な性格であり、大人しい雰囲気のアがうまくやっつけていけるか少し心配ではあった。

Aは徐々に仕事に慣れてきていたことから、1月に発生したNH地震で当課から現地へ応援要員を派遣することとなった際、災害現場を実際に見てきてもらいたいと考え、ベテランのC専門官とAを1か月間、I県庁に派遣することを私が決めた。

派遣終了後のCからの報告により、派遣先においてAが度々体調を崩していたことを知った。CはAに対しその都度休むようにも話し、また派遣要員の交代を要請することも提案したが、Aは責任感から仕事を続けていたようである。

派遣先でAが体調を崩していたことも、本人から他の課員には黙っていて欲しいと言われたことから、私とCの二人だけの情報とした。

Aが春に結婚することは以前から聞いていたが、2月の下旬にAから相談があると言われ、危機管理課からの転出の希望を切り出された。

NH地震への派遣で体調を崩したことから、このまま仕事を続けていく自信がないとのことであった。

また、結婚を控えて色々と準備があり、喜ぶべきことなのに少し疲れているとも話していた。最初は慰留に努めたが、数回にわたり個人面談を行った結果、本人の意思が固いことから人事当局に要望をしたが、春の人事異動は決定済のため来年まで待つようにと言われ、本人にも伝えた。Aも「仕方がないですね」と言ってくれたので納得したものと思っていた。

Aは本来であれば昨年の7月に県庁恒例の新人の合宿研修に参加予定であったが、直前にコロナに感染し参加することが出来なかった。

Aは今年の4月に入籍し5月に結婚式を挙げたばかりの新婚であり、今年は2年目なので任意参加の合宿研修に参加する義務は無かったが、本人に希望を聞いたところ「参加したい」とのことで参加させることとした。

1 日目：個人シナリオ全体

この数か月、後から考えればAは少し元気がない様子であったが、自殺をするような言動には全く心当たりはない。

人事異動が出来なかったことが原因であるならば、自分の責任でもあるし、もっと明確に伝えてもらえれば良かったという気持ち強い。

今回の事があった後、私と人事厚生課長、研修所長の3名で情報を共有することとなり、現場での対応は職員O、研修生J、K、Lが対応にあたったことなど発生時の状況や、当日のご家族の反応などを詳しく聞き、私の方もAの情報を2人に伝えたが、これらは個人の秘密に関する情報なので3者限りにすることとなったため、危機管理課の職員にも話していない。

惨事後 Meeting するとき「ご家族は何と聞いていますか？」と聞かれた場合
人事厚生課長から聞いた妻Aさんのことを話す。

県に対して 不信感、県に対してトラブルな感はなし。

奥さんは、口数がすくなく、びっくりしている 自殺するような兆候はみあたらない
遺書的にあった「ごめんなさい、先に逝きます」これについて特に思い当たるふしが
ない。

C (危機管理課 専門官) 51歳 男性

県庁に入ってから20年以上が過ぎたが、ここ10年ほどは危機管理課で勤務しており、自分もこの仕事に対するベテランであるという自負がある。

自分の若い頃はハラスメントという言葉もなく、指導に伴って少し手が出るなどということも普通にあり、反対にその様なコミュニケーションの中で育って良かったとも思っている。

一方で現在はハラスメントの防止については、厳しく指導をされているので、間違ってもパワハラは行わないように注意しているつもりであるが、地声が大きいので部下たちには多少怖がられているかもしれない。

女性の部下に対しては「ちゃん」付けをしているのは良くないと言われた事はあるが、親しみの感情を込めているものだし、軽く背中をたたくことはあるが、どちらも性的な意味ではないので、コミュニケーションの一環だと思っている。

昨年4月から入庁したばかりのAの指導を担当することとなった。

Aは一言でいえば大人しすぎるという印象で、部下になっても何度か飲み会に誘ったが、あまり参加しないし、参加した時もアルコールは飲まずにウーロン茶などを飲んでいて、指示した仕事は多少時間がかかっても最後までやるが、自分から積極的に仕事を求めていくタイプではなかった。

1 日目：個人シナリオ全体

1月の金沢への派遣は自分から申し出たとのことなので、少し感心したが現場では被災状況の写真や被災者と接することで、顔色が悪くなり余り働けてはいなかった。

初めての経験でもあるし、無理はさせられないのでその都度休ませたが、本人は大分無理をしていたようであった。

派遣の後半では誰か他の人と変わってもらうことを提案したが、本人はその人の迷惑になるので自分も残りますと言って断られた。

派遣の最終日に本人から危機管理課にいることを迷っていると相談を受けたが、進退に関わることは課長へ相談するように助言し、その上で本人から要望により派遣中のことも含めて、他の職員には話さないことを約束した。

2月以降、Aはいつもにも増して少し元気がないようも見えたが、仕事はたんと続けていて、時折、会議室で課長と面談を行っているようであったが、異動のことだろうなと思っていた。

Aは4月に入って結婚し、宿舎に入居したとのこと、結婚や引っ越しなどで少し疲れている様子であった。

異動の件については課長からは特に話しがなかったので、本人が取り下げたのかなと考えていた。

その後も少し元気がないようであったが、元々大人しい人間なので大きな悩みを持っているとは考えていなかったのも、今回自殺までしてしまったことは本当に驚いている。

D（危機管理課一係 係長）44歳 男性

危機管理課に来てから約5年であるが、この仕事にはやり甲斐を感じている。

C専門官とはずっと一緒に仕事をしているが、明るい性格で声も大きく、仕事で周囲を巻き込んで引っ張っていくような人である。

お酒が好きで良く同僚や部下を誘ってくるが、私自身は楽しく感じているが、今の若い人の中には苦手と感じている人もいるかもしれない。

私の部下はAとEの二人であるが、女性のEは3年前から部下として働いてくれており、仕事も出来るし良く気がつく優秀な人材である。

昨年4月に入ったAは年齢的にはEより年上であるが、新人なのでEの下に付いてもらっていた。

Aは大学卒業後、就職がうまくいかずにアルバイト生活をしてきたようであるが、彼女から結婚を迫られ、安定した生活を行うために県庁に入ったとのことであった。

昨年の12月頃に仕事で私とAの二人だけが職場に残っていた時、Aから4月には結婚することと、どんどん結婚が現実のものとして迫ってくることに對して、非常に心配であるというような話を聞いたことがある。

1月のI県への派遣はAが自分から行きたいと手を挙げてきたこと、災害現場での実際の業務は何より勉強になることから、C専門官と一緒にってもらうこととした。

1 日目：個人シナリオ全体

C 専門官では現場ではアドレナリンで仕事をするような人なので、A がついていけるか少し心配したが、何とかやってきたようである。

A は 2 月から 3 月にかけて元気が無かった様に見えたが、結婚のためにプライベートが忙しかつたので、少し疲れている程度だと考えていた。

最近になっても何か悩みを打ち明けるといふことも無かつたので、自殺をしたことは本当に驚いている。

直属の上司として気が付くことが出来なかつたこと、相談してもらえなかつたこと、何かできなかつたのかといふことが悔やまれてならない。

E（危機管理課一係 係員）26 歳 女性

入庁後、すぐに危機管理課に配属され、現在 3 年が過ぎたところ。

昨年 4 月に後輩である A が同じ係に配属されることになったが、自分より年上でもあり、やりにくいなと感じていた。

仕事に関する指導は C 専門官が行うこととなったので、自分は課の中での事務の進め方などを教えることが多かつたが、A は仕事を覚えるのも早かつたので、6 ヶ月も過ぎた頃にはお互いに対等な関係で仕事が出来ていたと思う。

A は元々大人しい性格なので、職場での会話も殆どが仕事のことで、お互いのプライベートな事柄などを話し合う間柄ではなかつた。

とはいえ、A の日常の生活から特別に困っているような事は感じ取れず、大きな悩みを持っているような素振りも無かつたので、なぜ A が自殺をしたのか全く判らない。

I 県への派遣の時に C 専門官が厳しいせいで疲れてしまったのかもしれないが、派遣の後も苦しかったとか、疲れているといったことは話していなかつた。

C 専門官は私の事を名前でも呼んできたり、ボディタッチをしてきたりするので、正直なところ苦手な人ではあるが、そのような事を A と話したことはない。

ただ、同じ係員だった私の方がもっと積極的に A に悩みを聞いておけば、今回のような事は防げたのではないかと強く思っている。

事故のあと夜に眠ろうとすると A の事が思い出され、あの時、こう話していれば良かったのではないかなど、色々考えてしまうので眠れなくなっている。

昼間に仕事をしている時にも、忙しくしている時には思い出さないのだけれども、手が空いてふっと気が抜けた時などに、A の事を思い出してしまう。

F（危機管理課 専門官）49 歳 女性

危機管理課に来てから 2 年が過ぎたが、同僚である C 専門官については、声は大きく、指導の時の内容も少し厳しいようには感じているが、パワハラとまでは思っていない。

1 日目：個人シナリオ全体

ただし女性に接する時は少し馴れ馴れしいと思うし、距離感が少し近すぎるのではないかと思っている。

自分に対してはそれほどでもないが、若い女性職員には「ちゃん」付けで名前を呼ぶなど、あまり気持ちは良くないと思っている。

Aとは1年間、同じ部屋で仕事をしており、仕事上の接点も少なからずあったので、正直なところかなりショックを受けている。

自分の子供のような年齢でもあり、なぜ、事前に相談をしてくれなかったのか、自分が相談相手としての信頼感が無かったかと、自分に対して自信を失っている。

Aが亡くなったことは、翌日に課長から全員に伝えられたが、なぜ自殺を選んだのかは教えてもらえなかった。

もし、職場での事を悩んでいたのであれば、私たちにも責任があるのではないかと気になって仕方がない。

でも、課の中では何となくAの事を話してはいけないような雰囲気になっており、仕事をしていても、みんな言葉数が少ないし何となくギクシャクしているように感じる。

自分が何とかしなければいけないのかもしれないが、自信もないし出来ないことにもどかしさを感じている。

G（危機管理課二係 係長）41歳 男性

自分は二係担当の係長なので、Aの事は良くは知らない。

自分自身もAと同じく昨年の4月に危機管理課に来たばかりであり、それまで危機管理の仕事もしていなかったのが意外でもあったし、この1年間は新しい仕事に慣れるまでかなり苦労をした。

二係担当の専門官は女性で優しい人なので、自分の仕事上で困ったことはないが、一係担当のC専門官は声も大きく、部下を良くからかっているのが、自分は苦手である。

他の課にいる私の友人から、C専門官は以前セクハラを行っていたとか、パワハラで訴えられたことがあるという噂を聞いていたが、このような人なら実際にあったかもしれないと考えている。

Aは大人しく真面目な性格であったので、C専門官とは合わなかったのではないと思う。以前、C専門官や一係長がいない時ではあったが、私に仕事の進め方を聞いていたことがあり、丁寧に教えたなら感謝された。今はそのときの笑顔が思い出されて仕方がない。

1月にI県に職員2名を派遣することになり、地震災害対応なので一係（地震担当）のC専門官が行くのは当然だし、Aが行くのも良い経験になるので頑張ってきてもらいたいと送り出したが、C専門官はパワハラチックな人なので、派遣中はAに対して厳しい指導をしたに違いないと思っている。

なぜなら、2月に戻ってきて以降、明らかにAの元気が無くなっていたし、普通、結婚を控

1 日目：個人シナリオ全体

えた人間があそこまで元気がなくなる事はないと思うので、C 専門官が何かをしたのではないだろうか。

A の事は残念ではあるが、これから台風や大雨の時期が来て、危機管理課もとても忙しくなるが人員の補充があるのか心配している。

H（危機管理課二係 係員）35 歳 女性

この 4 月に危機管理係に来たばかりであるが、自分から希望してきた訳ではないので、正直なところやる気がでない。

自分は昔から悪い星回りにあるようで、自分がいるところでは悪いことばかりが起きる。小学校に入学した時には大阪で阪神淡路大震災を経験し、その後、親が Y 県に移り住んだ。大学卒業時に何となく公務員を志望し県庁に入る事が出来たが、その年に東日本大震災があり、直接現場に行くことは無かったが忙しい思いをした。

今年の 1 月に NH 地震があり、正月から暗い気持ちになっていたが、その自分が危機管理課に来ることになってしまった。

一緒に仕事をして数ヶ月なので、A さんとの思い出みたいなものは特にない。

私の周りでは悪いことばかりが起きるので、今回、A さんが自殺をしたのも自分のせいかもしれない。

C 専門官は正直なところ、少し苦手である。

朝などはやたらと話しかけてくるし、休みの日に何をしていたのかなど聞かれても、正直なところ答える気持ちになれない。何となく笑顔だけ作ってやり過ごしているが、いい加減にしてもらいたいと思っている。

危機管理の仕事は自分には向いていないと思っているので、機会があれば早く出ていきたいと思っている。

I（危機管理課二係 係員）28 歳 男性

危機管理課に来てから 3 年ほどたつ。

A は新人として入庁してきたが、自分とは年齢が近いのでかなり親しくしていた。

A は酒があまり飲めないので、夕食を一緒に食べに行き、仕事の相談などにのっていた。

A は大学卒業時に就職活動に失敗しアルバイト生活をしてきたが、その生活は性に合っていたとのことで、あまり苦痛には感じていなかったそうである。

しかし、大学時代から付き合っている彼女から結婚するのであれば、安定した仕事に就いてほしいと言われ、県庁の試験を受け公務員になることにしたとのこと。

実際にやってみると、危機管理課の仕事は人の役に立てるという実感があり、やり甲斐もあるし楽しいと感じていたが、自分は少し要領が悪いので、周りに人に付いていけるか心配と話していた。

1 日目：個人シナリオ全体

昨年の夏にはコロナに感染したこともあり、周囲の人に迷惑をかけたと大きく落ち込んでいた。

そのせいで合宿研修に参加出来なかった事を悔やんでいたが、元々、強制的なイベントではないので、今年に参加するといった時は驚いた。

昨年の秋はY県でも大雨災害が頻発した。大雨災害への対応は二係がメインとなるが、実際の対応は危機管理課の全員で行っており、全員が疲労困憊の状態であった。

その中でAは彼女との結婚を控え、新居をどうするのか、結婚式はどうするのかなど、休みの日も体が休まらず疲労困憊だとかぼしていた。

1月のNH地震に伴うI県への派遣はA自身が希望したもの。

人の役に立ちたいという意気込みで出発したが、実際の現場では災害現場に行って被害の現場を見たり、また、発災直後の写真を整理する仕事もあり、更に被災者の方へのケアなど心が大きく揺さぶられることが多かったことで、気持ちが大きく落ち込んだようである。

一緒に行ったC専門官は休むようにと優しい言葉をかけてくれたとのことであるが、この程度のことで動けなくなる自分は危機管理課に向いていないのではないかと言い出した。

その後、課長に相談していたようであるが、春の転勤は無かったので、転勤の件は自ら撤回したと思っていた。

結婚したあと元気がないように思えたが、無理をして元気である様子を装っているようにも見えた。

心配して声をかけてみても、新婚なので以前のように食事に行く訳にもいかず、あまり話をできずにいたところ、今回の件が起きてしまった。

自分はAとは最も話しが出来る立場にあったのに、なぜ、気がつくことが出来なかったのか、防ぐことが出来なかったのか、悲しくて仕方がない。

事故のあと、夜に寝ようと思ってもAの事が思い出されて眠れないので、弔い酒のつもりで毎晩、お酒を飲むようになったのだが、なんだか最近量は増えているように思える。

自殺の理由が仕事によるものなのか、結婚によるものなのか自分には判らないが、どちらも影響を受ける人がいると思うので、自分からは何も話すことはできない。